

FCLコンポーネントグループ
2024年度
環境報告書



FCLコンポーネントグループは、環境を経営の最重要課題の一つとし、提供する製品・サービスと事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、持続可能な社会の実現と地球環境保全に貢献していきます。

1. ごあいさつ

私たちFCLコンポーネントグループは、1998年より「環境を大切に、より良い企業活動を行うこと」の理念の下、環境負荷の低減活動を継続して実施しています。

2023年も洪水や干ばつなど、世界各地で気象変動が原因とみられる被害が発生しました。私たちは地球規模の環境問題に直面しています。環境問題は喫緊の課題であり、今や全てのビジネスや社会活動における重要な要素となっています。

環境課題の解決に向けた重要なキーワードの一つとしてデジタルトランスフォーメーション（DX）があります。デジタル技術の進化により環境データの収集と分析能力が向上し、より効果的な環境管理戦略の策定が可能になりました。当社では環境センサーを搭載したIoTネットワークデバイスのご提供を通して、大規模なリアルタイムの環境モニタリング、ひいては皆様の持続可能なビジネスプラクティスの実施に貢献しています。

科学技術イノベーションによる市場のグリーン化の推進の観点からは、他にも、再生可能エネルギーやEVなどのグリーン用途に向けた製品開発への注力、製品のエネルギー効率や資源効率の向上などにおいて積極的な施策を講じています。

一方で、製造における温室効果ガス排出量や電気、水、産業廃棄物の削減に取り組み、取引先とのご協力のもと、ライフサイクル全般を通した環境負荷低減活動を継続的に推し進めています。

2024年度、当グループではカーボンニュートラル宣言^{（注1）}を打ち出しました。従来からの省エネルギー活動の継続に加え、再生可能エネルギーの導入や非化石証書（省エネ指定）の活用を活動計画に組み込み、2050年カーボンニュートラル達成という高い目標に向かって歩み始めました。当社グループの経営者・社員は、お客様、ビジネスパートナー、行政、自治体などと積極的に連携し、カーボンニュートラル社会の実現に向けて行動してまいります。



FCLコンポーネント株式会社
代表執行役社長CEO
木下雅博

（注1） FCLコンポーネントグループカーボンニュートラル宣言
<https://www.fcl-components.com/downloads/MICRO/fcl/environment/carbon-neutrality-2024jp.pdf>

2. 会社概要

本社	FCLコンポーネント株式会社
所在地	〒140-8586 東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー
代表者	代表執行役社長 CEO 木下雅博
設立	2001年10月1日
事業内容	リレー、キーボード、タッチパネル、サーマルプリンタ、無線モジュール、KVMソリューション、複合デバイス（ユニット製品）の製造・販売
資本金	9千万円
資本剰余金	128億1千万円（2024年3月末日現在）
決算期	3月31日
従業員数	2,100名（連結 2024年3月末日現在）
グループ構成	当社含み国内3社（うち1社は販売会社）、海外7社（うち5社は販売会社）の10社にて構成

3. 環境方針

■ FCLコンポーネントグループ環境方針

理念
当グループは、地球環境保全への取り組みを最重要課題であると認識し、「環境を大切に、より良い企業活動を行うこと」を理念とし、コンポーネント製品の開発、設計、製造、販売を行う企業であることを踏まえ、持続可能な開発目標（SDGs）に沿った豊かな社会の実現に向けて、ISO14001に準拠した環境マネジメントを推進する。

- 行動指針**
- 当グループの理念である環境保全への取り組みを最重要課題と捉え、当グループの活動、製品、サービスに関わる環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
 - 未来の世代のために地球環境を守る環境活動を通じた持続可能な社会の実現に取り組む。
 - 環境と経済の両立に貢献する製品を積極的に提供する。
 - 当グループの活動、製品、サービスに関わる環境関連法規、当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
 - 当グループ指定の有害物質を「入れない」「使わない」「付けない」「出さない」の考えで全廃を維持する（注1）。
 - 社員一人ひとりは、それぞれの業務と市民としての立場を通じて、持続可能な資源の利用（注2）、気候変動対策のためのカーボンニュートラル推進、生物多様性保全を始めとした環境の改善に努め、更に広くこれらの社会への普及啓発を図る。

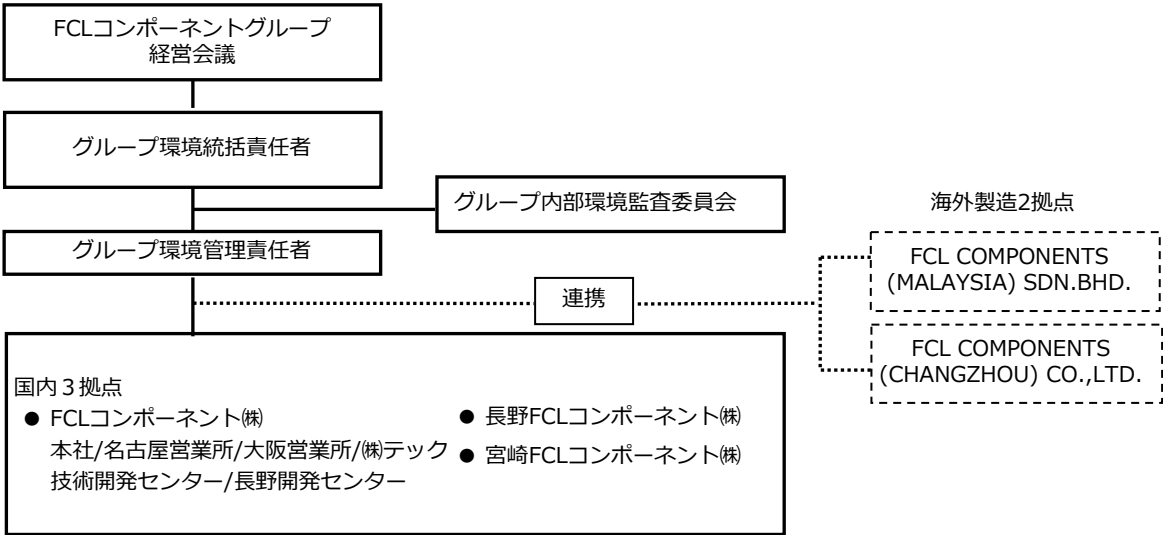
注1 法規制等から除外される用途は対象外とする。
注2 資源の多くは枯渇性のものであり、可能な限り長期に活用できるよう資源を有効に使用するため、環境配慮設計、省エネ、省資源、廃棄物削減、リサイクル等を推進する。

- 重点項目**
当グループの活動、製品、サービスに関わる環境側面のうち、次の項目を環境マネジメントの重点項目として取り組む。
- 製品のライフサイクルにおける環境価値の向上
 - 社会貢献活動の推進
 - エネルギー消費原単位の改善
 - 廃棄物排出量原単位の改善

- 附則**
- この環境方針は文書化し、当グループの全領域、全社員に周知させるとともに、一般の人にも開示する。
 - この方針の取扱部門は、FCLコンポーネントグループ環境マネジメント事務局とする。

2024年4月1日
FCLコンポーネントグループ
環境統括責任者

4. FCLコンポーネントグループ環境活動の推進組織体制



5. FCLコンポーネントグループ第9期環境行動計画／実績（2022年度～2024年度）

FCLコンポーネントグループ第9期環境行動計画を策定し、2022年度から2024年度末までの具体的な取り組みを設定し活動を行っています。2023年度の活動は全項目達成となりました。環境配慮製品は目標を1件上回る活動結果となりました。

項目	第9期環境行動計画（目的）	2023年度		
		目標	実績	
社会への貢献	【製品のライフサイクルにおける環境価値の向上】 環境に配慮し、下記項目のいずれかを満足した製品を2024年度末までに10製品以上開発する。 (1) エネルギー効率がトップレベル製品（注1） (2) 資源効率を1%以上向上した製品（注2） (3) エネルギー・資源効率の向上につながる新技術開発 (4) 製造工程の改善によるエネルギー・資源効率の向上した製品	3製品開発	4製品開発	達成
	【社会貢献活動の推進】 社会・環境課題の解決に取り組む活動を推進する。	23件	24件	達成
自らの事業活動	【エネルギー消費原単位の改善】 省エネ法に基づき、事業所におけるエネルギー消費原単位を直近5年平均から毎年度1%以上削減する。（注3）	別表1参照		達成
	【廃棄物排出原単位の改善】 廃棄物排出原単位を直近5年平均以下にする。（注4）	別表2参照		達成

別表1 エネルギー消費原単位における2023年度目標／実績

拠点名	原単位	2023年度目標（注5）	2023年度実績	
FCLコンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	0.996	0.763	達成
長野FCLコンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{売上げ金額 (千万円)}}$	2.520	1.800	達成
宮崎FCLコンポーネント	$\frac{\text{エネルギー消費量 (t-CO}_2\text{)}}{\text{生産数量 (千個)}}$	0.0177	0.0165	達成

別表2 廃棄物排出原単位における2023年度目標／実績

拠点名	原単位	2023年度目標（注5）	2023年度実績	
FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	83.7	79.4	達成
長野FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{売上げ金額 (百万円)}}$	19.2	13.6	達成
宮崎FCLコンポーネント	$\frac{\text{排出量 (kg)}}{\text{生産数量 (百万個)}}$	352.6	330.5	達成

(注1) エネルギー効率においてトップレベル製品（世界初、業界初、世界最高、業界最高など）をはじめとした、市場の上位に相当する基準を満たす製品
(注2) 製品の省資源化（製品の小型化、軽量化、薄型化、部品点数の削減）または資源循環性（廃棄量の削減、リサイクル性）の向上
(注3) エネルギー消費原単位＝エネルギー消費量（t-CO₂）／生産量（売上げ金額または生産数量） CO₂換算係数は省エネ法で公表された直近の数値を使用する
(注4) 廃棄物排出原単位＝廃棄物排出量（kg）／生産量（売上げ金額または生産数量）
(注5) 直近5年の実績平均をもとに目標値を算出

6. 環境への取り組み

■ 環境配慮製品の開発

FCLコンポーネントグループでは、エネルギー効率や資源効率に優れる製品の開発を推進し、環境と経営の両立に貢献する製品を積極的に提供しています。



■ 主な開発製品



リレー



無線モジュール



タッチパネル

区分	製品群	開発製品	削減率（従来品比）
エネルギー効率	リレー	駆動機構の見直しによるコイル消費電力の低減（FBR53-LEリレー）	省消費電力率：26%
資源効率	無線モジュール	薄型化による資源削減（FWM8BLZ14）	削減率：48%
	タッチパネル	抗菌、抗ウイルス機能付きITOフィルム開発による後貼り保護シート削減	削減率：5%
	サーマルプリンタ	カスタムモバイルプリンター部品点数削減による資源削減	削減率：39%

■ 社会貢献活動

FCLコンポーネントグループ各社は、地域社会との共生や生物多様性保全を目的に社会貢献活動を行っております。



■ 主な活動内容



コンタクトレンズケースの回収・寄付
FCLコンポーネント本社（東京都品川区）



工場周辺の清掃活動
FCLコンポーネント技術開発センター（長野県須坂市）



外来種セイタカアワダチソウ駆除活動
長野FCLコンポーネント（長野県飯山市）



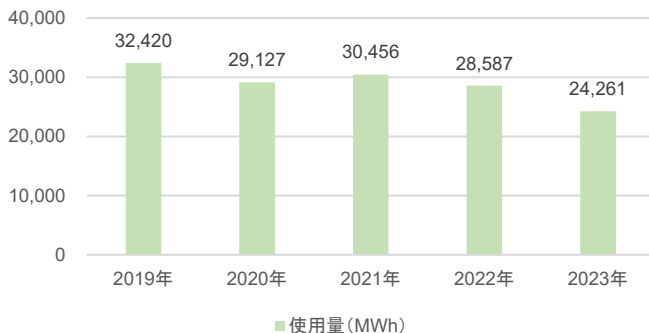
工場周辺の清掃活動
宮崎FCLコンポーネント（宮崎県日南市）

■ 地球温暖化防止への取り組み（温室効果ガスCO₂排出量の削減、エネルギー消費原単位の改善）

FCLコンポーネントグループでは、「2050年度カーボンニュートラル達成」の目標を掲げました。（下記【カーボンニュートラル推進】をご参照ください）
これまでも化石由来エネルギー（電力、A重油、LPG等）の削減に取り組んでおりますが、新たに非化石エネルギー（太陽光などの再生可能エネルギー）の導入や、グリーン電力証明/非化石証書の調達などの検討も行っています。
また、上水や地下水の使用量削減にも継続して取り組んでおります。



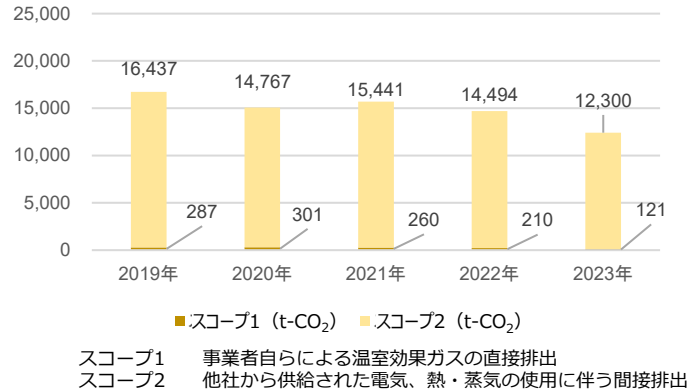
■ 電気使用量の推移



■ 水使用量の推移



■ CO₂排出量の推移



【カーボンニュートラル推進】

FCLコンポーネントグループ
カーボンニュートラル宣言

<https://www.fcl-components.com/downloads/MICRO/fcl/environment/carbon-neutrality-2024jp.pdf>

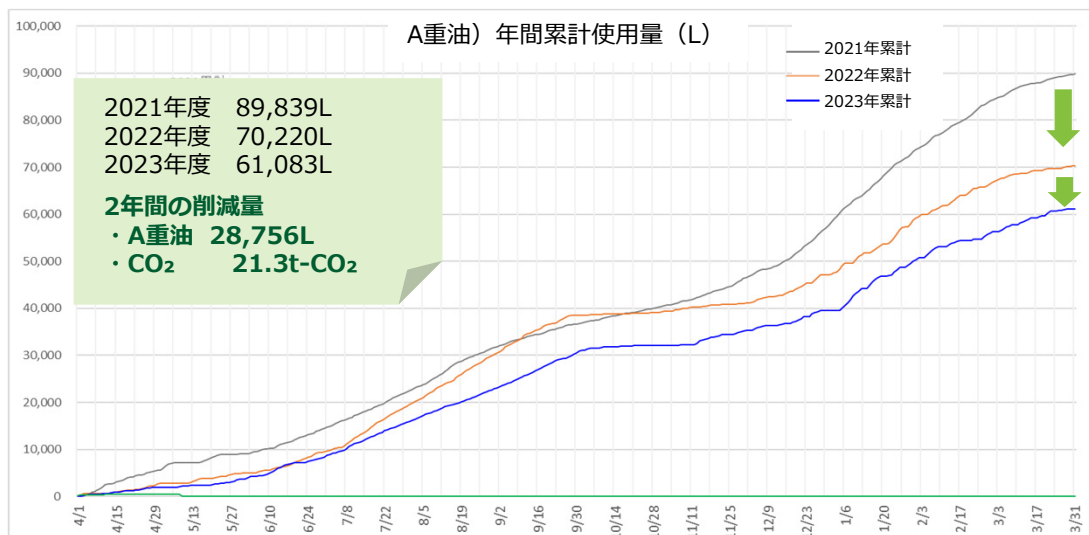
トピックス

【エネルギー効率改善】

工場操業に合わせ、きめ細かく空調運転を行いCO₂排出量を削減

エネルギー使用効率の改善によるCO₂排出削減のために、国内3拠点の代表者で構成する省エネルギー推進ワーキンググループによる削減活動を継続しています。

2022年度からの施策である「クリーンルーム空調およびボイラーのきめ細かい運転管理」を年間通じて実施し、A重油の削減を図りました。（FCLコンポーネント技術開発センター）



■ 産業廃棄物削減への取り組み

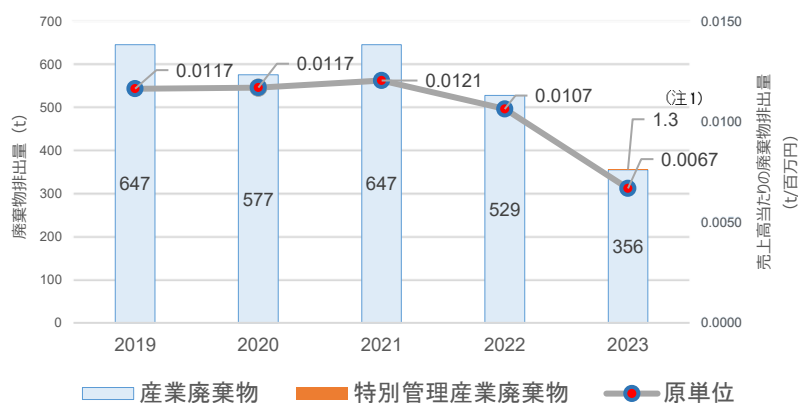
FCLコンポーネントグループでは、社員一人ひとりが3R（リユース・リデュース・リサイクル）の推進を意識し、分別に取り組んでいます。

また職場や製造工程から排出する廃棄物は再使用やリサイクル（再資源化）を推進して、排出量の削減に努めています。

更に、当社製品の一部（キーボード、サーマルプリンタ、KVMソリューション製品）に対して、長野FCLコンポーネントリペアセンターにて、市場に出荷した製品のリペアサービスを提供しており、当社製品を長期ご使用いただくことによるサーキュラーエコノミー（循環型経済）に取り組んでいます。



■ 廃棄物排出量の推移



■ リペアサービス提供による製品の長期使用



7. 製品含有化学物質管理とグリーン調達

■ 製品含有化学物質管理

すべての購入品は「環境共通購入仕様書」により欧州RoHS指令、REACH規則などの環境法規制に適合した調達を推進しています。

「環境共通購入仕様書」にて指定したFCLコンポーネントグループの含有・使用禁止物質に対しては「含有禁止適合保証書」による適合確認、さらに「chemSHERPA」^(注1) による環境法規制順守の確認を行い、FCLコンポーネントグループの製品および製造工程への含有・使用禁止物質の混入防止や地球環境の保全および生態系への影響の軽減に取り組んでいます。

(注1) アーティクルマネジメント協議会（JAMP）の情報伝達共通スキーム

(Chemical information Sharing and Exchange under Reporting Partnership in supply chain)



■ グリーン調達

サプライチェーンを通じた環境負荷低減活動を進めており、取引先様には環境マネジメントシステムの構築と地球温暖化防止の活動について取り組みをお願いしています。

8. 責任ある鉱物調達対応

■ 高リスク鉱物への対応

当社製品は、経済協力開発機構（OECD）のガイダンス（注1）を参考にし、高リスク鉱物の調査（注2）を推進しています。

調査では、Responsible Materials Initiative（RMI）の報告テンプレート（紛争鉱物およびコバルト）を使用しています。

お客様のご要求に信頼できる情報を提供するため、引き続き製錬業者特定やサプライチェーン透明化への取り組みを行ってまいります。

（注1）紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス

（注2）タンタル・錫・金・タングステンおよびコバルト・マイカを調査・特定



9. 外部コミュニケーション（外部評価）

■ ISO14001：2015 第三者認証を取得

FCLコンポーネントグループは2016年度にISO14001：2015年版を取得後、環境負荷低減を図っています。



■ EcoVadis サステナビリティ評価で「シルバー」を獲得

EcoVadis社（本社：フランス）のサステナビリティ評価において「シルバー」と認定されました。

特に「環境」においては積極的な取り組みが高い評価を得ております。



■ 本書に関する問い合わせ

FCLコンポーネント株式会社
事業推進ディビジョン事業企画セクション

住所 〒382-0076 長野県須坂市大字須坂1174
Tel 026-248-5566
E-mail fcl-contact@cs.fcl-components.com

本報告書は、FCLコンポーネントグループの日本国内の組織に関するものです。

FCLコンポーネント株式会社

〒140-8586
東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー

発行責任部署 事業推進ディビジョン事業企画セクション
編集責任部署 営業統括ディビジョンマーケティングセクション
発行年月日 2024年8月6日
記載事項対象期間 2023年4月1日～2024年3月31日（2024年度計画も含む）